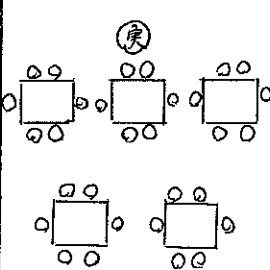

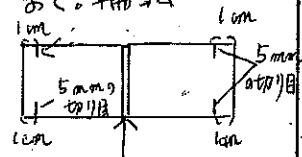


### 部分実習指導案

令和元年11月 日( ) 天候 組 4歳 男児 名 女児 名 計 名	指導担当者名 印 実習者名 印		
<b>子どもの実態</b> ◦物を作ったり、絵を描いたりすることが好きな子どもが多い。 ◦技能面では、テープが必要なところに貼ったりすることが難しく、テープの長さが長過ぎたり、貼るところからずれてしまったりする。	<b>活動</b> パッチンを作って遊ぶ <b>活動のねらい</b> 作った物を使って遊ぶ楽しさや味わう。		
<b>時間</b>	<b>環境構成・準備</b>  < 実習生準備物 > ①厚紙(7cm x 9.5cm)の中央を1mm程度開き、テープで両面貼る。台紙。(見本用と子どもの数と準備) ②輪ゴム。(見本用と子どもの数と準備) ③イルカ、カエル、バッタ、ゴキブリ等のイラスト画の用紙、各30枚程度。  ④台紙には、5mm程度のハサミの切り目を入る。輪ゴム 	<b>子どもの活動・経験</b> ◦実習生の話を聞く。 ◦「鳴いた鳴いた」「飛んだ飛んだ」のゲームをする。 ◦いろいろな鳴く動物や飛ぶ昆虫や生き物に興味をもつ。 ◦実習生がパッチンと手の平のせま、パッチンが落ちないように見る。 ◦パッチンに興味をもつ。 ◦パッチンを作ることを聞き、順番にクレパスや糊を引き出し取り取り、用意ができた座る。 ◦実習生の作り方をみる。 ◦のり下紙の上でイラストの裏に糊を貼る。 ◦切り目に輪ゴムをかける。ハサミでもう一方の切り目に輪ゴムをかける。 ◦クレパス(水性ペン)でイラストを塗る。 ◦両面色塗りしたら、クレパスと糊を引き出ししょう。	<b>実習生の援助・留意点</b> ◦自分の席に座り、実習生の方に顔が向けられるよう、体を返す。 ◦子どもたちに何が鳴いた? 「何が飛んだ?」などと、かけ合いのゲームを、飛ぶものに興味をもたせておく。 ◦子どもたち全員が見ることのできるよう、手の平や空いている台紙の上で遊ぶ方を見せる。 ◦平たいケースに、イラスト画を各6枚準備をしておき、台紙と一緒に各テーブルに置く。 ◦台紙1枚と好きなイラストを2枚選ぶように話す。 ◦のり下紙を配る。 ◦イラストの裏に、端々にまぎれ糊を貼るよう言葉をかける。 ◦糊の貼り方を確認しながら、台紙に2枚ともイラストを貼るよう話す。 ◦指をタオルで拭いた糊を拭くように、テーブルごとに配る。 ◦輪ゴムを配りながら、テーブルごとに輪ゴムをクロスさせて切り目にかけるやり方を示す。 ◦わからない子には、手を添えながら、教えるようにする。 ◦イラストが塗れた子から、パッチンで遊ぶよう、引き出しに教材をしまうように話す。

1mmあきテープを貼る。

時間	環境構成・準備	子どもの活動・経験	実習生の援助・留意点
	<p>④ 糊下紙(35枚 新聞紙をB5大に 切っておく。)</p> <p>⑤ おしぼり 5枚 (指ふき用各テール紙)</p> <p>&lt; 幼児の準備物 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グリップス又は水性ペン</li> <li>・ 糊</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 糊下紙はたんにゴミ箱に捨てる。</li> <li>・ パッチンゴで遊ぶ。</li> <li>・ 片付ける。</li> <li>・ グループごとに順番で引き出しにパッチンゴをしまう。</li> <li>・ 実習生の話を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 糊がベタベタにならないよう内側にたんで、ゴミ箱に入けるよう指導する。</li> <li>・ 丁寧に新聞紙のたんにいる子どもを認めている。</li> <li>・ パッチンゴで遊んでいる姿を見守ったり、一緒に遊んだりし、「高くジャンプするね」「面白いわね」など子どもたちの楽しんでいる姿を見て具体的に声をかけ、楽しさに共感する。</li> <li>・ お弁当を食べ終ってから、再度遊ぶことを伝え、期待を持たせて終了する。</li> </ul>